スペシャリスト育成、次世代の

滋慶学園グループの学校法人大阪滋慶学園が開学以来掲げるミッションは「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことだ。この実現に向けて「実学教育」「人間教育」「国際教育」の三つを建学の理念としている。医療をはじめとする各業界の現場では、即戦力として活躍できるスペシャリストが強く求められており、専門学校教育の重要性はますます高まっている。大阪滋慶学園では今年、滋慶医療科学大学院大学から初の修了生を送り出す。これに加えて、出雲医療看護専門学校を開校する。グループを統括する浮舟邦彦総長に、医療や福祉などの現場で、いま求められている教育などについて聞いた。（聞き手は取締役大阪支社長・曽根洋一）

インタビュー

「国際教育」が未来を開く
成長分野の人材も育てる

滋慶学園グループ
総長　浮舟　邦彦氏

【プロフィル】
うきふね・くにひこ　64年（昭39）関西学院大法卒。76年新薗会常務理事、83年滋慶学園理事長、87年大阪滋慶学園理事長。95年米フロリダ州立ウエストフロリダ大、09年米コロンビアカレッジシカゴ、13年1月韓国啓明大学それぞれより教育名誉博士号授与。日本医療秘書学会理事長。大阪府出身、72歳。

―大阪滋慶学園はこれまで知識・技術を教えるだけでなく、人づくりにも取り組んできました。

「医療、福祉に強みを持つスペシャリストを育てるだけでなく、医療分野においては一人ひとりの温かい人間性、患者や介護する人に寄り添う、コミュニケーション力が何より大切だ。技術、知識がしっかりしていると同時に、現場にふさわしい『人間力』をもった人を育てていきたい。さらに『チーム医療』のメンバーとして笑顔のあいさつに始まり、主体的に行動できるスペシャリスト、テクノロジストとしての身構え、気構え、心構えのできた人材を医療・福祉の業界に送り出したい」

―以前から国家試験の合格率では高い実績がありましたね。

「その仕事をするための国家資格が必要である場合、実学的な部分では資格試験で合格することが当然の目標になり、合格させることが教職員の仕事だ。そのためにグループ全体の力を生かした対応をしている。常にシステム、カリキュラムの見直しや教員研修などFD（ファカルティ・ディベロップメント）に力を入れている。国家試験対策センターを設けているのもそのためだ」

―医療分野で国際的に活躍できる人材の育成も進めています。

「業界・社会からはグローバルな視野をもった人材が求められている。日本の学生が海外を知り、世界の学生が日本を知る。その両面でアプローチをしている。海外の学生、スタッフも大阪滋慶学園への研修が多くなってきている。とくにアジアが経済力を増してきた現在、『国際教育』は大きなキーワードになる」

―一昨年開校した滋慶医療科学大学院大学から学生が巣立ちます。2年間の教育の手応えは。

「医療の質と安全に携わる分野で、第一期の修了生を送り出す。彼らは、それぞれの専門がありながら医療の質と安全に高い問題意識を持った学生が多かった。実践的な課題をもって研究に向かっているため、修士論文も各方面から注目されている。いずれは博士課程の開設も視野に入れている。医療現場でもリスクマネジメントは経営マター。大きなテーマだからこそ深く掘り下げながら取り組んでいきたい」

―4月には出雲医療看護専門学校が開校します。

「地元から学校開設の熱心な勧誘を受けた。地域の看護師が不足している現状を何とかしたかった。地元の学生が地元で勉強して地元に残る。地域から信頼される学校にしていきたい」

―最後に、今後力を入れる教育分野について聞かせて下さい。

「やはり医療関連の人材育成が大きな柱になる。例えば、バイオ分野で細胞を扱える技術者やCAD／CAMを操作できるモノづくり人材の育成強化など社会から求められる成長分野の人材の育成にチャレンジしていく」

いま求められる教育とは？

海外からも来賓多数
大阪滋慶学園5校卒業式

2012年度の大阪滋慶学園各校の卒業式は、大阪医療技術学園専門学校、大阪医療福祉専門学校、大阪医療看護専門学校が13日、大阪ハイテクノロジー専門学校、大阪保健福祉専門学校、大阪滋慶学園5校が14日、両日ともホテルニューオータニ大阪（大阪市中央区）で開かれた。卒業式には日本だけでなく、海外からの来賓と講師を合わせた関係者約370人が招かれた。約750人の保護者も卒業生の門出を見守った。

海外提携校である米・オレゴン州のポートランド・コミュニティカレッジのアルジイ・ゲイウッド学長、中国・広東省の廣東医学院の鄭学宝院長などから卒業を祝う言葉が贈られたほか、優秀な成果をあげた卒業生や卒業研究への表彰も行われた。

式にはアルジイ・ゲイウッド学長も出席、門出を祝った

卒業式で祝辞を述べる鄭学宝院長（中央）

実践力磨き 社会へ

大阪滋慶学園は「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションとし、「実学教育」「人間教育」「国際教育」の三つを建学の理念に掲げ、時代の要請に応じた即戦力人材を輩出している。

5校とそれらを取りまく機関や施設が連携し、必要な知識、技能、能力の習得だけでなくキャリアの発展までも含めた教育を実践。事務系、教務系、就職系の3部門が一丸となり、「専門職業教育＋（プラス）キャリア教育＝職業人教育」として推進している。

職業人としての実践的な教育を受け巣立つ卒業生は5校合わせて約1200人。医療、福祉、保健、ハイテク分野の将来を担う人材として期待されている。

贈る言葉

滋慶学園グループ・浮舟邦彦総長　卒業生の皆さまは仕事を通じて社会貢献する。その専門知識や技術を生かして人々を幸せにしてほしい。それはとても素晴らしい道になる。手に入れた資格やこれまで身につけてきたプロとしての技術や業界人としての身構え、心構えは生きていくためのものであるが、それ以上に世の中や人のためにあるということを忘れないでほしい。

各校の卒業・課題研究発表
（日刊工業新聞社賞受賞研究の紹介）

大阪医療福祉専門学校

言語聴覚士学科
小野寺 直子さん
平野 彩さん
森下 宜子さん
岡松 有香さん

聾(ろう)児の乳幼児期における言語環境整備について

これまでの日本の聾教育において採用されている音声言語を主体とする口語法は、重度の聴覚障害児に対し十分な成果を上げておらず、母語獲得と教科学習が伸び悩む「9歳の壁」が問題視されている。その原因に音声言語では母語の獲得が不十分なために理解の限界があることが考えられた。

そこで発表者らは、視覚を用いた日本手話を聾児の第一言語とし概念形成を行い、音声母国語を取得するバイリンガル教育への提案を考察した。乳幼児期から手話環境と母語としての日本手話の妥当性を検討した。

まず、海外の事例においてすでに手話を第一言語とする以下の教育法による母語獲得や学力向上がみられる。また、言語性としても、完結した体系を持ち獲得機構が生物学的基盤に基づき音声言語と同等の獲得過程を持つ日本手話は自然言語として妥当であるといえる。

加えて、手話と音声言語が併用されるベビーサイン・マカトン法などのサインは言語が言語獲得に有効である面からも、聾児教育の方向性としてバイリンガル教育は有用である可能性が示唆された。

音声言語獲得に主眼を置く口語法は口話訓練に時間を割かれるため子供への負担が大きい。

しかし、一番に配慮すべきは他者との生き生きとした交流である。そのための積極的な概念形成へ自由自在に操れる母語の獲得が重要であるとまとめた。

大阪保健福祉専門学校

社会福祉科
伊勢村 麻菜さん
佐藤 貴美さん
冨田 翔大さん
三鶴 由美さん

コンビニエンスストアスタッフが地域福祉実現において担う役割に関する研究 ～コンビニエンスストアスタッフへのアンケート調査より～

一人暮らしの高齢者を見守る地域支援の在り方として、コンビニエンスストア（コンビニ）の役割およびコンビニ店員が得る情報の有用性について研究した。

その背景には年々増加する独居高齢者の孤独死を未然に防ぐ願いがある。自ら家族や周囲との関わりを拒否する高齢者の増加もあり社会福祉協議会や民生委員も存在を認識できないケースが拡大している。

こうした中、高齢者が食材などを購入するため日常的に利用するコンビニに着目。店員143人へのアンケート調査と高齢者の常連客へインタビューを実施した。結果、店員の87％が高齢者の存在を認識し、75％が互いの声かけが必要と回答。常連高齢者からも「コンビニ店員が1週間あなたの顔を見ないと思った時に福祉機関へ連絡してほしいか」との問いに「希望する」と多くの高齢者が答えている。コンビニは独居高齢者が他者と関わり社会に自らの存在を示す場として有用であることが明らかになった。

今後は常連客とコンビニ店員が交流可能な内容を明確化し高齢者情報を福祉関係者へ伝える方法を模索、試行していく必要がある。その一例として社会福祉協議会と連携し地域のコンビニ共通で使えるメンバーズカードなどの発行を提案。

発表者は「さらに詳細なデータ構築を目指すとともに有用な社会資源を発掘し地域の福祉サービスへつなげるためアンテナを巡らせる」と意気込む。

大阪ハイテクノロジー専門学校

バイオサイエンス学科
石川 佑太朗さん

肥満状態における肝細胞増殖因子(HGF)の役割の解明

肥満は全世界にまん延する健康問題であり、世界保険機関（WHO）によると世界人口の15％にあたる10億人以上の成人が過体重という。石川さんは肥満が原因の大半を占める2型糖尿病に着目。肥満状態で増加するとされる肝細胞増殖因子（HGF）と糖尿病体との関連を調べた。

実験ではHGF血中濃度が通常の2倍の「HGFTGマウス（HGF遺伝子導入マウス）」と野生型マウスを比較。それぞれに高脂肪食負荷を与え毎週体重測定を実施したほか、糖負荷試験やインスリン負荷試験を実施。血糖値測定後の14週目に剖検し臓器採集と重量測定を行った。

両マウスの体重を比較すると有意に差が見られ、HGFは体重増加を抑制していることがわかった。糖負荷試験やインスリン負荷試験でも差があり、HGFTGマウスは耐糖能やインスリン抵抗性に改善傾向が見られた。

結果としてHGFTGマウスは高脂肪食負荷を与えても肥満しにくく、逆に中和抗体投与実験でHGFを阻害すると体重が増加し、血糖値上昇と病体が悪化した。これによりHGFを過剰発現させることで体重増加、血糖値上昇を抑制できること、逆にHGF中和抗体を打つことで体重増加、血糖値上昇が促進されることを確認できた。以上から肥満において上昇するHGFは、肥満や糖尿病の病体を改善する方向に働いている可能性が示唆された。

大阪医療技術学園専門学校

医療秘書・情報学科
岩﨑 都美さん
中上 舞さん
中村 智夏さん
松浪 由佳さん
山下 穂浪さん
山田 実咲さん

医師事務作業補助者の導入状況と改善案

医師事務作業補助者（補助者）は、診断書・処方箋の作成補助、電子カルテの代行入力などの業務を担う。医師本来の医療行為に専念できる環境を支援するため、厚生労働省は2008年に補助者に関して、診療報酬の対象に加えた。発表者らは導入後の時間的な経過も背景に、補助者に関する病院への調査を実施し、その改善策を考察した。

全国のベット数200床以上の病院を対象に、アンケートを行った。送付件数は209件、回収数は24件、回答率11・5％。その結果、約8割が「医師の負担が軽減された」と回答し、補助者の役割を評価している。

一方で改善したいことへの設問（複数回答）には、回答の多い順に「知識の習得」「スタッフの育成」を選択。発表者らは、この病院側のニーズから補助者のスキルアップを課題に挙げ、その方策を提起する。

具体的には、補助者研修後の病院内での継続的な勉強会の開催などを提案。カルテの読み取り能力向上など、医師事務の作業や各診療科の分野ごとの勉強会、ミニテストを実施し、その環境整備が医学知識の習得向上につながり、重要な診断書作成補助の業務効率も高められる、とする。

また、医師との信頼関係構築には、治療方針などを理解するカンファレンスの参加も提案する。

これらのスキルアップした補助者が指導する側の人材に成長すれば、医学知識を持つ職員が増え、業務の効率化も進む、としている。

●医療秘書・情報学科（昼間2年制）
●医療心理科（昼間3年制）
●薬業科（昼間2年制）
●臨床検査技師科（昼間3年制）
●言語聴覚士学科（昼間3年制）
●言語聴覚士学科（昼夜間2年制※）
●鍼灸師学科（昼間3年制）
●鍼灸健康美容学科（昼間3年制）
●東洋医療技術教員養成学科（昼間2年制）
●薬業科（夜間1年制）
●専攻科（昼間1年制）
※4年制大学卒業以上
学校法人 大阪滋慶学園　厚生労働大臣指定校　日本病院会認定校
大阪医療技術学園専門学校
〒530-0044　大阪市北区東天満2-1-30 TEL(06)6354-2501
0120-78-2501　http://www.ocmt.ac.jp

●臨床工学技士科（昼間3年制・夜間3年制）
●臨床工学技士専攻科（昼間1年制）
●バイオサイエンス学科（昼間3年制）
●スポーツ科学科（昼間2年制）
●鍼灸スポーツ学科（昼間3年制）
●柔道整復スポーツ学科（昼間3年制）
●柔道整復師学科（昼間3年制・夜間3年制）
●ロボット学科（昼間2年制）
●日本語学科（昼間1年制・昼間1.5年制）
●専攻科（昼間1年制）
学校法人 大阪滋慶学園　厚生労働大臣指定校　大阪府認可
大阪ハイテクノロジー専門学校
〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-43（新大阪駅前）TEL(06)6392-8119
0120-33-8119　http://www.osaka-hightech.ac.jp

●看護学科（昼間3年制）
●社会福祉科（昼間4年制）
●介護福祉科（Ⅰ部2年制・Ⅱ部3年制）
●医療秘書・情報科（昼間2年制）
●保健保育科（昼夜間講2年制）
●精神保健福祉科（夜間1年制）
●社会福祉専攻科（夜間1年制）
●専攻科［医療秘書・情報専攻］（昼間1年制）
●別科［通信教育科］
学校法人 大阪滋慶学園　厚生労働大臣指定校
大阪保健福祉専門学校
〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-47（新大阪駅前）TEL(06)6396-2941(代)
0120-128-294　http://www.ochw.ac.jp

●診療情報管理士学科
［診療情報管理士コース］（昼間3年制）
［医療ソーシャルワーカーコース］（昼間3年制＋専攻科1年制）
●理学療法士学科（昼間3年制・夜間4年制）
●作業療法士学科（昼間3年制・夜間4年制）
●視能訓練士学科（昼間1年制・昼間3年制）
●言語聴覚士学科（昼間2年制）
学校法人 大阪滋慶学園　厚生労働大臣指定校
大阪医療福祉専門学校
〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-14（新大阪駅前）TEL(06)6393-2288
0120-1298-59　http://www.ocmw.ac.jp

●看護学科（昼間3年制）
学校法人 大阪滋慶学園
大阪医療看護専門学校
〒560-0045 大阪府豊中市刀根山5-1-1（刀根山病院隣）TEL(06)6846-1080
0120-57-1080　http://www.ocmn.ac.jp

●看護学科（昼間3年制）
●理学療法士学科（昼間3年制）
●臨床工学技士学科（昼間3年制）
●言語聴覚士学科（昼間3年制）
学校法人 大阪滋慶学園
出雲医療看護専門学校
〒693-0001 島根県出雲市今市町1151-1 TEL(0853)25-7034
0120-868-123　http://www.icmn.ac.jp

●医療管理学研究科
医療安全管理学専攻（修士課程2年）
学校法人 大阪滋慶学園
滋慶医療科学大学院大学
〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-8 TEL(06)6150-1336
http://www.ghsj.ac.jp